

## 8. 偽梅毒性白斑 leukoderma pseudosyphiliticum

20～30歳代，色黒のアジア人男性の腰殿部に好発する．約1～2cm大の境界鮮明な不完全色素脱失斑が多発し，しばしば融合して網目状になる．自覚症状はない．網目状の白斑が梅毒性白斑に類似するが，梅毒性白斑は露出部の皮膚に発生する傾向をもち，梅毒血清反応陽性の点で鑑別される．

## B. 色素増加を主体とするもの hyperpigmentations

### 1. 雀卵斑 じゃくらんはん ephelides

#### 症状

いわゆる“そばかす (freckles)”である．3歳頃から顔面，頸部，前腕などの露光部に，直径3mm程度の類円形，表面平滑な褐色斑が多発する（図16.10）ようになり，とくに夏季の日光（とくに紫外線）で色が濃くなり，冬季には消失傾向になる．加齢とともに増悪し，思春期に最も顕著となるが，以後色調は薄くなっていく．

#### 病因・病理所見

家族内発生が多く，一部はメラノコルチン1受容体 (MC1R) の遺伝子多型が発症に関与している．色素性乾皮症などによる重症例では常染色体劣性遺伝形式をとる．メラノサイトが活性化し，基底層においてメラノソームの著増を認める．本症のメラノサイトは樹枝状突起が発達し，機能も亢進しているが，数は増えない．

#### 診断・治療

単純黒子，色素性乾皮症，遺伝性対側色素異常症，ポイツ Peutz-イェガース Jeghers 症候群，早老症などの疾患を除外する．サンスクリーンを用い紫外線を避ける．

### 2. 肝斑 melasma, chloasma

#### 症状

いわゆる“しみ”である．30歳以降の女性に好発し，男性ではまれ．境界明瞭な淡褐色斑が，きょうぶ 頬部を中心に対称性にみられる．前額や口囲に拡大することもあるが，眼囲は侵されない．



図 16.10 雀卵斑 (ephelides)  
いわゆる“そばかす”。